

電離放射線と非電離放射線の相違点

京都医療科学大学 大野和子

類似点: 不安の対象

非電離放射線

1. 不妊
2. 小児の発癌
3. 発癌リスク増加

電離放射線

1. 胎児影響
2. 小児の発癌
3. 発癌リスク増加
4. 大規模災害

異なる点：恩恵の範囲

非電離放射線

1. 送電
2. 携帯電話
3. リニアモーター

電離放射線

1. 医療
2. 発電所(事故の記憶)
3. 産業医療(認知されず)

非電離放射線は、一定数過敏症が存在する

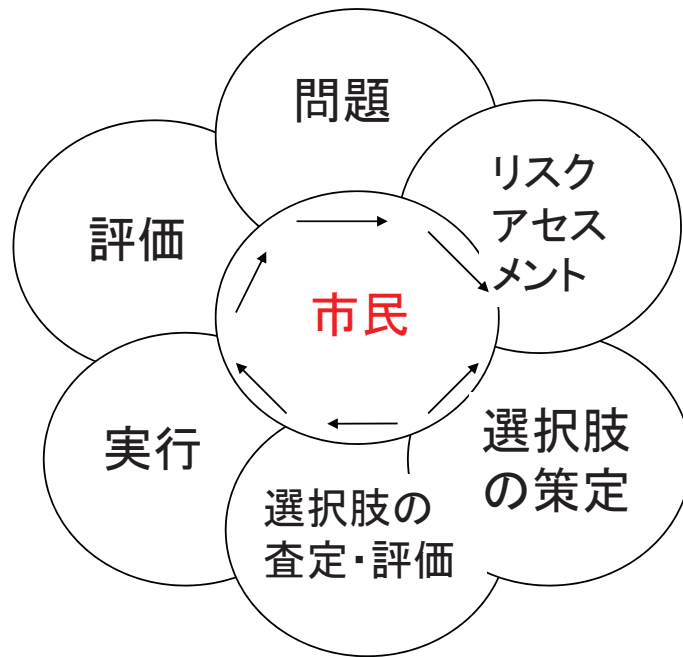
医療の放射線利用に対する患者さんの気持ち

- 被ばくへの抵抗感は強い
「他の選択肢がないから仕方なく」
- 体調不良の改善が最優先で考える余地は無い

医療放射線を理解してもらう困難さ

- 我がことにならないと関心が薄い
- 感情的な不安の払拭が困難

不安を持つ人が納得できるリスク管理 非電離放射線(送電線周辺住民対応に学ぼう)



非電離・電離放射線
コミュニケーションの手法は同じ

ヘルスカウンセリング

健康相談・指導

対応者の基本姿勢

- 相手の不安の本質に近づく
(相手は語りたい！)
- 不安の解消に目的を絞る
- 必要性を理解できるように支援

~~知識があるから、答える~~

対応の目標(相手から引き出す言葉)

- 私のために、ありがとう
- 冷静になった
- 必要があれば検査を受ける
(医療の場合)

やってはいけないこと

- 1) 専門書の内容をそのまま伝える(意味不明)
- 2) 一般論を述べる(他人事)
- 3) 余分の情報を添付する(親身でない)
- 4) 同業者の対応への非難(専門家への不信感の増大)
- 5) 数値を単に伝える(意味不明)

相手の要望に対応できているか？

- 被害者でないと確認することが満足に繋がる
- 勉強を望んでいない(専門用語や単位は、対応者側の業務簡便化のために利用しがち)
- 「がん」の回避に積極的

防護の専門家へ御願い

不満の裏に潜む別の事情。

病気、撮影装置の話は医療従事者の参加要請を

患者さんの言い分

- 私の話をお聴いてくれなかった。不親切。
- 意味不明の専門用語(mGyなど)を使っていた。
- 大丈夫って、一言で片付けた。

被害者ではないか？ の具体例

- 子供の外傷に動揺し、冷静な判断ができない状態でCT検査に同意。
- 子供の健康が心配で親がCT検査を切望。



不必要な検査を受けさせ、将来の健康リスクをわが子に与えたと**自責**

子供のためによく頑張りましたね◎

患者対応から学んだ 不安を持つ人への対応の基本1

1. 漠然とした質問のときは相手から情報を引き出す
2. 相手の立場を推察した内容を言葉で表現する
心配な事柄が明確になるように誘導する
不安のポイントが合っていることを確認する
3. 簡潔に答える. 説明したくても、ぐっところえる
(新しい心配事ができたら、また相談にくるさ、と思う)
4. 納得できたかをその場で確認する

対応の基本 2

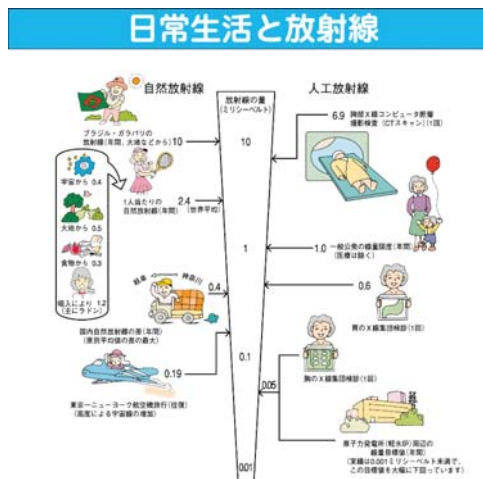
5. 相談者が、過去にどれくらい調べているかを把握
6. 聞き手のレベルに合わせる
7. 身近な言葉、具体例を挙げる。回答のpointは3個以内にする
8. 大切なことを強調する
9. 正確な事実のみを話す。知らないことは話さない
10. 友人などに前もって聞いてもらう
11. off the recordは無いと考える
12. 相談内容を、公表するのか、個人的な相談かを前もって確認する

相談者の理解を助けるために

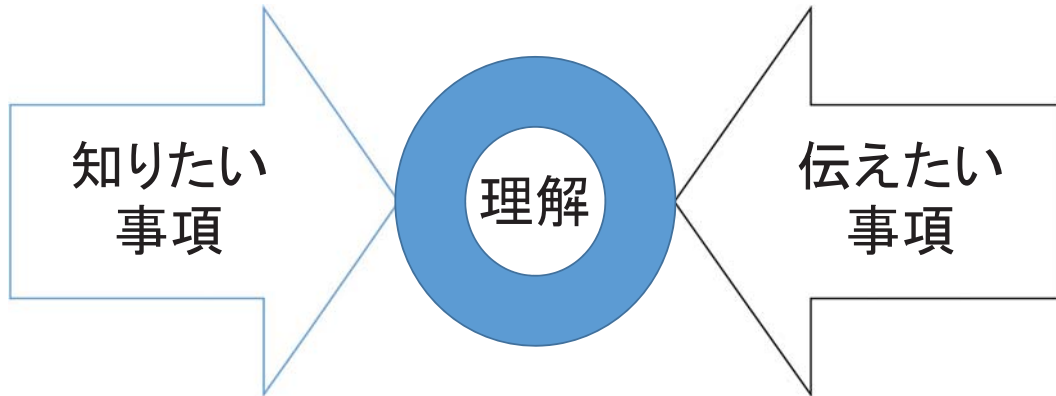
1. 紙に書いた資料を渡す
2. ゆっくり、短く、はっきりとした声で話す。
3. 相手がメモを取っている時は、間をおく
4. Eye contactを取る
5. 相手が理解できたかを確認める

見飽きたと不評な割に理解はしていなかった

- この図は見飽きたのに、自然放射線が認知されていない → 学びたくない、文字の多い絵は飛ばす



正確な情報でも、
手に取ってもらえなければ意味が無い



伝える技術の研鑽を